# 全般 1か月予報

(9月20日から10月19日までの天候見通し)

平成20年9月19日 気象庁 地球環境・海洋部発表

### <特に注意を要する事項>

予報期間の前半は、北日本と東日本日本海側では、気温がかなり低くなる時期があり、気温の変動が大きい見込みです。農作物の管理等に注意してください。

#### <予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。 天気は、北日本、東日本、西日本では数日の周期で変わるでしょう。予報期間の前半は、北日本、東日本では、気温の変動が大きい見込みです。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 向こう1か月の平均気温は沖縄・奄美で高い確率60%、東日本と西日本で高い確率50%です。 週別の気温は、1週目は東日本と西日本で高い確率60%、沖縄・奄美で高い確率50%、北日本で平年並または高い確率ともに40%です。2週目は北日本で低い確率60%、沖縄・奄美で高い確率60%、東日本で低い確率50%です。3~4週目は沖縄・奄美で高い確率50%、東日本と西日本で平年並または高い確率ともに40%です。

#### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

<b>〔気 温〕</b> 北日本	30 30 40	<b>[日照時間]</b> 北日本日本海側	30	40	30
東日本	20 30 50	北日本太平洋側	30	30	40
西日本	20 30 50	東日本日本海側	30	40	30
沖縄・奄美	10 30 60	東日本太平洋側	30	30	40
[降水量]	40 20 20	西日本日本海側	30	30	40
北日本日本海側	40 30 30	西日本太平洋側	30	30	40
北日本太平洋側	40 30 30	沖縄・奄美	30	30	40
東日本日本海側	40 30 30				
東日本太平洋側	40 30 30				
西日本日本海側	40 30 30				
西日本太平洋側	40 30 30				
沖縄・奄美	40 30 30				
	低い(少ない)	平年並	一高	い(多い)	

#### <気温経過の各階級の確率(%)>

[1週目]	北日本	20	40	40
	東日本	10	30	60
	西日本	10	30	60
	沖縄・奄美	10	40	50
[2週目]	北日本		60	30 10
	東日本		50	30 20
	西日本	30	40	30
	沖縄・奄美	10	30	60
[3~4週目]	北日本	30	30	40
	東日本	20	40	40
	西日本	20	40	40
	沖縄·奄美	20	30	50
		低い	平年]	並高い

## <予報の対象期間>

1か月 : 9月20日(土)~10月19日(日) 1週目 : 9月20日(土)~9月26日(金) 2週目 : 9月27日(土)~10月3日(金) 3~4週目 : 10月4日(土)~10月17日(金)

#### <次回発表予定等>

1か月予報:毎週金曜日 14時30分 次回は9月26日

3か月予報:9月25日(木) 14時 寒候期予報:9月25日(木) 14時

#### <参考資料(平年並の範囲)>

(1)1971 ~ 2000 年のデータに基づいた向こう 1 か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差(℃)		降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
北日本	-0.4 ∼+0.3	日本海側	90 ∼ 112	93 ~ 106
		太平洋側	$80 \sim 108$	93 ~ 106
東日本	-0.5 ∼+0.1	日本海側	75 ~ 115	96 ~ 107
		太平洋側	75 ∼ 112	$92 \sim 107$
西日本	-0.4 ∼+0.4	日本海側	74 ~ 119	95 ∼ 105
		太平洋側	$79 \sim 101$	93 ∼ 106
沖縄・奄美	-0.2 ∼+0.2		70 ~ 111	94 ~ 105

(2) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1 週目	2週目	3~4週目
北日本	<b>-</b> 0.4 ∼+0.4	-0.5 ∼+0.5	-0.5 ∼+0.4
東日本	-0.5 ∼+0.4	-0.5 ∼+0.4	-0.6 ∼+0.4
西日本	-0.5 ∼+0.4	-0.4 ∼+0.4	-0.6 ∼+0.4
沖縄・奄美	-0.3 ∼+0.4	<b>-</b> 0.2 ∼+0.3	<b>-</b> 0.3 ∼+0.2

#### <参考資料(利用上の注意)>

- (1)気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。
- (2)予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった 10%以下や 60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。
- (3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。